

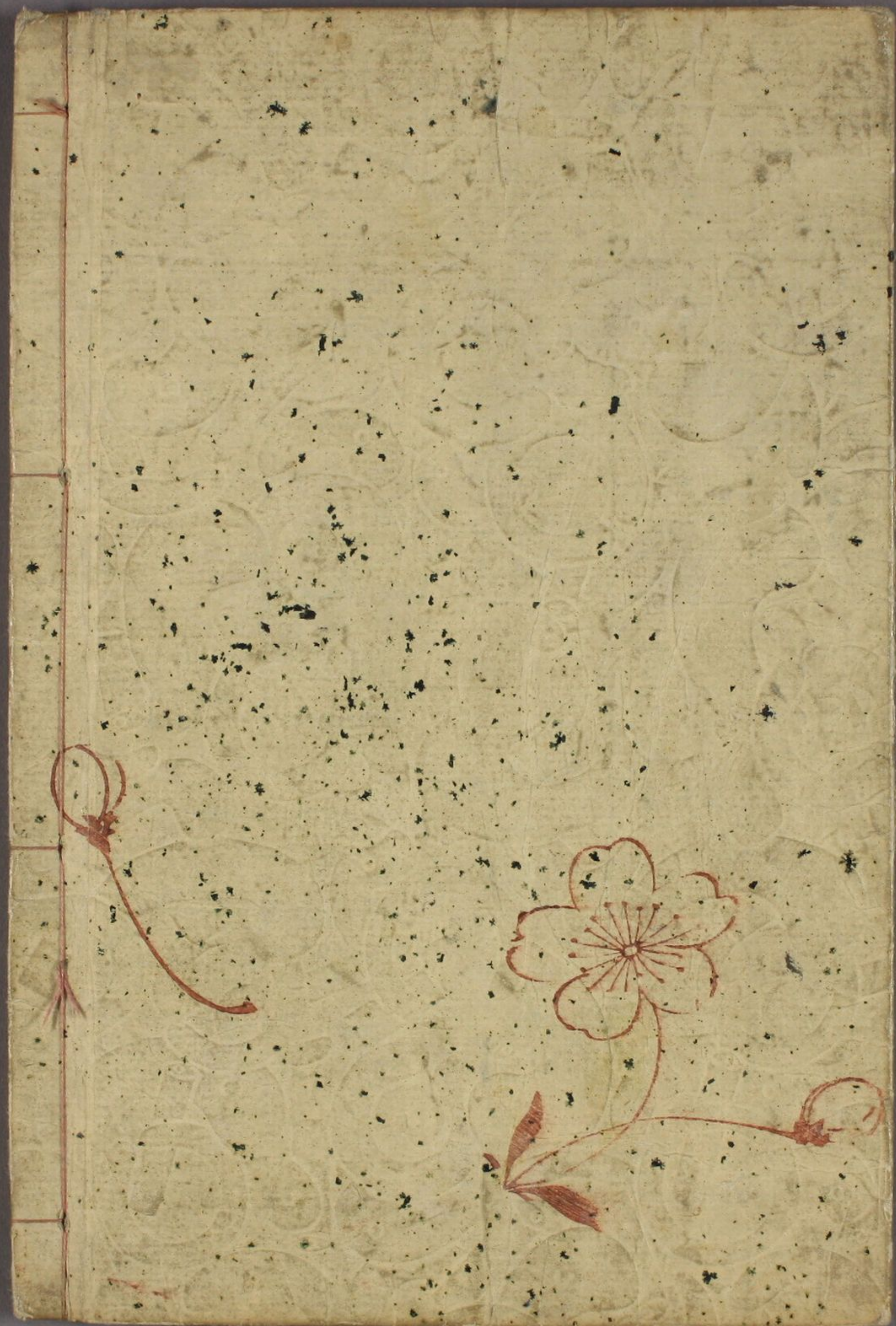
久保
桑
又
保
編
述

見
母
里
歌

第
一
輯









讀世田
 師篇



久保杖桑編
 純古書

兒母里歌

櫻隄余霞樓
 藏版
 棠枝堂發兌

見るの事
是言

國語

明治七年 四月 秋月 撰題

於 檜 揚 小 莊 鷗 迎 鷺 送 處



夕 何 其 弄

緒言

此書ハ皇國外
國のふちふく
賢人々々の
言語の中ふも
教へとるる
さふとを編り
て專ら童
謡小地あへ傍
り習字小使
ありしめ題



竹 崎 亦 著

者言

久 保 氏 蔵

児多里歌

第一輯

久保扶桑編

世^よに^な中^なに^なあ^なる^な物^{もの}

て児もり歌せ
つゝ慈母乳媪
常小枕邊のき
一話小換てよの
歌を誦す一々
バ亦えのゆな
びれ一端と衣
な〜ん〜

明治七年四月
編輯者記



の。靈たまひたる人ひと純じゆん
性せい質しつを善ぜんふし
あまきと知あさりゆふ。
目めも福ふき身みに

聴きくよを直なほえ
正ただしくまか
せバ水みづ能あたる
徳あまひを方あた圓ちを

味あじさきふ異ことなるら
 び。教しゆひ深そま里らそ
 以もつりししうふ身み
 能た行かこひを禽きん獸ぶ

に。均ひとししくくのの啓ひ
 の。おふんおおもも。たたふふて
 者まささおお人ひとひひとと里ら。
 多たふふまま文ぶん明めいのの大おほ清せい

新編 卷之三 年倚 賦

代よ々。惠めぐみも源ふ起り
鄙ひま一。ま。ま。ま。段ま
あ。建たてぬる小せう学がく
ま。ふ。れ。ぞ。造か物み者。

ら。極。人ひと々。の。授さづ
里。う。け。一。知ちを。
ひ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
初しよ登と山さんた。た。と。ひ。字。

初登山 四 〇 保 氏 蔵

中の老を 碇 善くしき。
 玉 如 雜 之 磨 祿
 光 也 出 之 塊 也。
 其 一 映 之 世

小 友 之 古 一
 人 能 言 之 業 一
 二 里 能 道 也 一
 歩 之 里 一 也

望あまをば土産留女
よ。父と母をば子恩
愛り。六歳の
春を起しのなむ。

望あまをば土産留女

望あまをば土産留女

まらふ心子よ酒ひ
そをん。寸毎をば
あかぬ。後ふ頼里。
規則をば守

規則をば守

規則をば守

三〇日結
 裸業紙如之
 以。乃。は。心。之
 五。音。数。字。

名頭國畫皇統
 御名を継ぎ
 詔。痛。一。た。る。書
 詔。世。篇。ま。た。る。手

紙を張る

外傳

紙を張るに
一箱一書お面の
首ふ陳ハ惣そ榮
雲芳墨様見也

貴人御如く仕
可疾頓首拝答
也。申子ト
素紙字久を纏

紙

保紙職

自^ら 謙^た の 見^み ても
 意^い の 通^{つう} じや なる を
 專^{せん} 一^{いち} と。 夕^{ゆふ} 小^{せう} 家^か
 に 帰^{かへ} する なる べし といふ

く あや 反^{くわん} 復^{ふく}
 漸^{ぜん} 次^じ 小^{せう} 等^{とう} を
 及^{およ} ぶ 越^こ へ ぬ 也^{なり}
 遂^{すい} じや 中^{ちゆう} 學^{がく} 也

早はや之の道みち者もの

通つう學がく試し験けん由よしすみ

大だい學がく者もの

法ほう律りつ政せい治ち科か如ごと

器き械けい測そく量りやう鑛かう山さん

科か史し學がく文ぶん學がく医い

學がく科か堂どう分ぶん立たち

如ごと專せん門もん科か實じつ

分類

十
分類

地ふ術

功成至名

地ちふ術じゆつをほむと

功こう成せい至し名な

遂すいちのちのおおののくくたた好このみ

英えい語ご佛ぶつ蘭らん

西せい語ご羅ら甸てん希き臘れつ

和わ蘭らん語ご獨どく乙いつ魯ろ

西せい亞あ語ご支し那な語ご

すすううごごおおののひひとと弘ひろとと

地ふ術

功成至名

外そとののくくにに物もの
品ものにに相あ場ば也や音ね子こ
奇き談だん瞬しゆん之の間まに
問とひをを一一つつ報こたへへも

左ひだりのの報こた便べんのの
善よくく如ごとくく港みなとのの是こゝに
年とし々々如ごとくく輸ゆ出だをを皇く
國くにのの土つち産う物ものをを箱はこ糸いと

徳川

十三
深紙藏

徳川

徳川

銘茶陶漆益年
ふす寸く日ふ
よく。聲。心。答。心。答。
久海外ふ得たる

利潤子活計
國を富しめ
兵を強ふ
籌策多。他ふ求

御書

十四
御書

御書

御書

武庫中にも能く
以て各の身
を治る。家なきを
政令なき。厚く守

愛國の實
を以て一
致小帰
て。一
致小帰

御書

十五
〇
保
紙
織

高
〇
保
紙
織

世に
長

一
保
職

こと事ごとく
やまやまの
書後後生家
にそむく

能道理想人
稀ふし今昔
も世にたむ
る業を奉る

世に
長

十六
保
職

士君子也。暗いと
ものふきき。春は
や。夏は。秋は。
の。月。降る。は。雪。

此冬の日。程き
日。を。惜み。つ。
撓。を。研。る。学問。
智。識。ひ。ろ。め。

十七
保
藏

功績いさどき。琴こともも歐羅や羅ろ。
巴ぱ亞あ細と石や洲ま水みとと。
南みなみ亞あ米め利り加か也や。
亞あ非ひ利り加か洲しゅう五ご。

大だい海かいとと中なみもも。
國くに異い地ち方かののもも。
去こ冬とう風ふう極ごく也や。顏がん。
也や空くう語ごのの一いつののもも也や。

ぞもまゝぬ義
狸と人情を忘るぬ
ハ野蠻夷秋と
賤一めらまつ人

ぬ一と人へぬる甲
斐をまもる今
也文運日ふ進みつ
まふ閑る君の世

...

十九
保紙職

...

...

うまきあひぬ
る童男女こどもら常つね母
心こころふ熱あつく風かぜまひを
まらだい第一いちに身み

體たい也や衣い服ふく住ぢゆう居まよ
を潔けつく清せいく保たも
つを健けん康かう能のう産しんま
まらあり徒いたづらふ花はな美び

肥後

二十
保紙職

肥後

保紙職

を好みえ飲食の
度を過しよと疾
病を母と種を
王情欲を制し

抑々苟も奢に
耽る財貨をバ
り費し耗せ
あふ偏小益とある

和漢

三十一
保紙藏

和漢

保紙藏

業わざをを励しげみ勉つとめを
明日あしたあるまじと申まうた
逢あひつたたきあるまじ
我あだ空あだふおろそかな

穉ち母はは老おいき多おほく後のち
の功名こうめい人ひとふ如ごと
をを申まうめををと
為なすなと決かす

二十
保
紙
藏

ぬる事能正理小
遠ひまばしのり
危難ふのぞむを
も。う。る。く。節。を

屈せよ。意思言辭
小誅實を盡し
人小損害を如
を愛もあし思徳

抄

二十三
の
保
紙
職

抄

保
紙
職

必^{かならず}ずとも不^{あら}報^{はら}
由^{よし}。人^{ひと}能^{あた}不^あ
母^{はは}。子^こ之^の如^{ごと}く
也^{なり}。

有^ある。或^{ある}と云^いふ。己^{おの}を
とら^とりて。子^こを。能^{あた}ま^まる^る也^{なり}
す。己^{おの}を。糖^{あま}る^る也^{なり}。是^こを
他^たに。人^{ひと}の。恩^{おん}を。ま^まる^る也^{なり}。

平田の久保大蔵

み 懐ふまをけりぞ。
人 子とあまき我
知る可き。家のみ
のとを省く人の已

ふよつらぬ家
のあまき戒心の
あまきおゆるを
己の力を責む他

久保氏蔵
...

人を恨むな。愚
知者も他の人。知過
尖るるを明かす。
賢ましく毛己の牙

知悪を去るを
れたるを人。を去
る。知るるを。身
身を去るつおの

牙みを。ゆるまを。つる
又 他たのひとを。怒やし
く己この欲ほつを。いふ。子こ
を 他た人ひとに。施せさ。ま。長ちやう

者しやふ事じへ。幼せうの。
子こを。と。難なんも。悔あはし
ま。た。た。禮らい遜そんを。者しや
と。し。人ひとに。自じ由ゆう

を妨^{さまた}ぎおのりさ^たせ。あつた
他^たおのりさ^たせり。己^{おの}が
身^みに自由^{じゆう}の権^{けん}を害^{がい}す
さ^さき^させ。不^ふ韃^た鞑^た弱^{じやく}立^{りつ}

に一家^{いっか}内^{ない}也。さ^さき^させ
治^ち理^りを^を睦^{むつ}び^びと^とせ。は^はじ
め^めと^とあ^あり^り。茶^{ちや}あ
物^{もの}に^に害^{がい}する^{する}人^{ひと}に^に

名ふ小こ姓せい持もちののししののしし

純古書

兎由至款

第一輯終